

## 平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	45	都道府県・指定都市名	宮崎県
学校名（生徒数）	宮崎県立宮崎大宮高等学校（1293名）		

（本研究に係る問い合わせ先）

所在地：宮崎市神宮東1丁目3番10号

電話番号：0985-22-5191

研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：<http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyazakiohmiya-h/>

### 【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：4 高等学校
- 研究対象教科等：総合的な学習の時間
- 研究のキーワード：基本的な思考やスキル 協同的な学び合い 思考ツール 言語活動
- 研究成果のポイント：探究活動における基本的な思考やスキルを育成する授業実践

### 【研究の目的、研究内容】

#### （1）研究主題

探究活動における基本的な思考やスキルの育成  
～協同的な学び合いにおける言語活動の充実を通して～

#### （2）研究主題設定の理由

本校の文科情報科では、平成20年度より課題解決型学習「探究」（総合的な学習の時間）の授業研究を進め、ひとまず体系化した教育課程は確立した。しかし、各単元における学習活動の吟味が不十分なため、協同的な学び合いにおける「整理・分析」過程においてどのような言語活動が有効なのかを検討し、探究活動を行う上で必要とされる基本的な思考やスキルを育成する上で効果的な授業の在り方を研究していきたい。その際、「思考ツール」の有効性についても検討する。

#### （3）研究体制

##### ①研修部

文科情報科の職員で構成され、「探究」の授業計画・運営・検証等を行う。

##### ②文科情報科会

文科情報科関係の職員で構成され、「探究」の授業実践を行う。

#### （4）1年間の主な取組の経過

平成25年度	①研修部・文科情報科会における職員の共通理解（4月）
	②宿泊研修「地元学で宮崎の活性化プランを考える」の授業研究（4月）
	③単元「メディアの情報を読み解く」の授業研究（6月）
	④単元「憲法9条改正をディベートで議論する」の授業研究（10月）
	⑤単元「研究論文作成の基礎論」の授業研究（11月）
	⑥生徒による自己評価・相互評価の分析（12月）
	⑦研究報告書『文科情報科・「探究」授業研究』の作成（12月）
	⑧研究成果報告書の作成（1月）

#### （5）具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

- ①『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開—高等学校編—』（文部科学省平成25年7月）を踏まえた「全体計画」「年間指導計画」「単元計画」等の作成。
- ②探究活動における基本的な思考やスキルを育成する授業モデルの検討。協同的な言語活動の充実させる上での「思考ツール」の有効性についても検討。
- ③生徒の「話し合い」「討論」や「感想文」「小論文」「研究報告レポート」などの談話分析にまで踏み込みながら、探究プロセスにおける言語活動の在り方を研究。
- ④上記①～③の研究内容や授業プリントやこれまでの授業研究等の記録をまとめた研究報告書『文科情報科・「探究」授業研究』を作成。

## 【研究成果とその意義等】

### (1) 研究成果

[ 各単元における言語活動と思考ツールの効果 ]

単元名	言語活動	思考スキル	思考ツール	思考ツールの効果
地元学で宮崎活性化プランを考える	宮崎活性化プランを、地元学の考えを踏まえて話し合う。	課題解決力	KJ法的手法	○自分の意見と他者の意見の関係性を可視化できる。 ○話し合いにおける合意形成のプロセスが学べる。
メディアの情報を読み解く	壁新聞をグループで作成し、批判的視点で批評し合う。	批判的思考力	壁新聞	○一連の探究のプロセスを体験できる。 ○潜在的な批判的思考を意識化できる。
現代社会の諸問題をディベートで議論する	憲法9条改正の是非について複眼的視点で議論する。	複眼的思考力	発表用原稿ワークシート	○一つの事象を異なる視点から複眼的に吟味できる。 ○論理性「主張－根拠」を意識化できる。
研究論文作成の基礎論	心理学実験の結果を分析し、構成シートをなぞりながらまとめる。	論理的な文章構成力	実験報告レポート作成用の構成シート	○研究論文の論理構成を学べる。 ○データを統計的な手法で整理・分析できる。

各単元の探究プロセスにおいて「行き詰まり」や「つまずき」を見せていた生徒に対して、「思考ツール」（「ワークシート」を含む）を利用することで、思考活動の「カテゴリー化」「抽象化」「具体化」「焦点化」「構造化」などを促し、学習活動に「見通し」や「方向づけ」を行うことができた。探究プロセスにおける「思考ツール」の活用は、いわば生徒の思考の深化を促す「足がかり」として機能した。

ただ、具体的学習場面で使用する「思考ツール」がやや複雑だったり、状況とマッチしていなかったりすると、むしろ言語活動や思考活動を硬直化させてしまう場合もある。

そこで今後は、各単元の探究活動において、「どのようなテーマ」の「どのような言語活動」において、「どのような思考スキル」が使用されるかを見極めた上で、「思考ツール」の選択をすべきだろう。あくまでも「思考ツール」の活用は、思考の深化を促す「手段」であるため、その活用それ自体が「自己目的化」しないように留意する必要がある。

### (2) 研究成果の意義等

研究報告書『文科情報科・「探究」授業研究』の作成によって、

- ①『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開－高等学校編－』（文部科学省平成25年7月）を踏まえた授業モデル（「全体計画」「年間指導計画」「単元計画」）の提案。
- ②日本生活科・総合的学習教育学会「総合的な学習の時間が育む力」調査プロジェクトの調査活動における量的データ（学力・進学実績）や質的データ（生徒のコメント）の提供。

を行うことができた。

### (3) 指定期間終了後の取組

今年度本研究に取り組むことによって、1年次の「探究」の授業（探究活動における基礎的な思考やスキルの育成）について授業分析を行えた。そこで、次年度は2年次の「探究」の授業（生徒の主体的・自治的なゼミナール活動）について授業分析を行い、「協同的に学び合うことで、探究プロセスの充実を実現する指導計画及び指導方法等の研究」を行いたい。